



12 年に一度の霊場巡り—その 9—

酉歳には、前回ご紹介した都筑橋樹酉歳地藏霊場に加えて、もう一つ武相不動尊霊場の御開帳があります。会期は5月1日から28日の午前9時から午後5時までです。

この霊場は、昭和43年(1968年)に、神奈川県川崎市・横浜市から東京都大田区・日野市に分布する28カ寺が集まって結成されました。翌昭和44年(1969年)が酉歳で、最初の御開帳が催されました。港北区域で御開帳をしている霊場としては、最も新しいものです。会の発起人は身代り不動尊(2番札所)でした。一般に、発起人が1番札所を務めることが多いのですが、川崎大師に譲ったのだそうです。札所が28カ所なのは、不動尊の縁日が28日であることにちなんでおり、28番札所は高幡不動です。武相の名を冠していますが、全ての寺院が武蔵国にあり、相模国には分布していません。ちなみに、武相学園の校名の由来は、第212回をご覧ください。

12年に一度の酉歳御開帳なので、今年で5回目になるのかと思っていましたが、西方寺の伊藤増見住職のお話では、12年間隔では長いので、その中間にあたる卯歳に「中開帳」をしたことが1、2度あるそうです。

毎回バスツアーが企画されますが、札所が川崎市から日野市まで広範囲に分布していることから、日帰り2日のコースとなっています。

では、港北区内にある札所を順に紹介していきます。

7 番札所 興禅寺 (天台宗)

高田町の興禅寺については、前回ご紹介しました。御開帳の善立不動尊は、江戸時代高田村にあった善立寺の本尊でしたが、後に廃寺となり興禅寺に移されたものです。5月1日から8日の間に参拝すると、地藏菩薩と不動明王の2つの御開帳を一度に体験出来ます。

8 番札所 金蔵寺 (天台宗)

御詠歌 くもりなく 不動の鏡 あらたけく  
法の光は 代々を照らさん  
日吉本町の清林山仏乗院金蔵寺は、貞観年間(859~877年)に天台宗第5代座主智証大師円珍が開基し、本尊の大聖不動明王も円珍作と伝えられています。

武相不動尊霊場はまだ新しいので、前回平成17年(2005年)御開帳時の納経帳に御詠歌が記されていたのは11カ所のみ、区内では金蔵寺だけでした。

9 番札所 西方寺 (真言宗単立)

新羽町の普陀洛山西方寺は、明応年間(1492~1501年)に鎌倉から現在地に移転してきました。日切不動尊の「日切」とは、約束の日限を守って願いを叶えてくれるということです。

西方寺には、旧小机領三十三所子歳観音霊場の十一面観音立像があります。平安時代、12世紀の作と推定されるこの観音立像は、平成23年(2011年)の東日本大震災で破損したため、朝日新聞文化財団の文化財保護助成を受けて、修理保存事業を実施し、今年3月15日に開眼供養が行われました。

14 番札所 三会寺 (高野山真言宗)

鳥山町の瑞雲山本覚院三会寺は、源頼朝が佐々木高綱に奉行を命じて建立したと伝えられるお寺です。本尊は弥勒菩薩ですが、『新編武蔵風土記稿』には「本尊は不動の木像にて長2尺3寸許(約70cm)立像なり、行基菩薩の作なりといひ伝ふ」と書かれていますので、江戸時代には厄除不動尊が本尊だった時期があるようです。

26 番札所 光明寺 (高野山真言宗)

新羽町の遍照山光明寺は、明応5年(1496年)に継伝僧都が鳥山町三会寺の末寺として開創しました。御開帳の大聖不動明王像は、高野檜の一本造りで、両脇侍の矜羯羅童子、制多迦童子と共に、総本山の高野山金剛峯寺より勧請されたものです。

さて、お寺を参詣すると、不動尊の手からは五色の糸(善の綱)がお堂の外まで張られており、供養塔で五色の長い布切れとなって下げられています。この善の綱に触れることで不動明王と縁を結び功德をいただける(善処に導かれる)とされます。

お茶やお菓子のご接待を用意してくださっていることもあります。お断りしないのがマナーだそうです。お茶をご馳走になりながら、様々な方々との出逢いを楽しむのも札所巡りの味わいです。

記: 平井 誠二(公益財団法人大倉精神文化研究所所長)